

# レセプトデータによる クリティカルパスの分析とその応用

小早川儀雅<sup>†</sup> 峯松 佑典<sup>1)</sup> 引地 敦子 黒田 裕介 永田 隆史<sup>2)</sup> 岩垣 博巳<sup>3)</sup>

IRYO Vol. 68 No. 11 (563-567) 2014

## 要 旨

下気道感染パスを対象とし、レセプトデータ (E, F file) を用いて診療プロセス分析、パス分析、在院日数分析、ベンチマーク分析を行った。その結果、クリティカルパスに予定された診療プロセスと実際の診療プロセスが可視化され、パスを容易に評価することができ、その情報を臨床の場にフィードバックすることでパスの改訂につながった。また、在院日数分析とベンチマーク分析は経営改善に資する情報を提示することができ、レセプトデータ (E, F file) を用いた分析は有用であることが示唆された。

キーワード レセプトデータ、クリティカルパス、ベンチマーク分析

## はじめに

当院、福山医療センター事務部企画課ではクリティカルパスに関与するための取り組みとして、レセプトデータ (E, F file) を用いた分析を行っている。取り組みの内容は、クリティカルパスに予定された診療プロセスと実際の診療プロセスとを比較し、色の濃淡で『可視化』することで容易にパスの実施状況を検証することである。こうして得られた情報を臨床の場にフィードバックすることで、活用しやすいパスの改訂につなげるとともに、病院収益増加につながる資料として提示している活動を報告する。

## 対象と方法

対象は「下気道感染パス (7日間) 傷病名: マイコプラズマ肺炎等」を使用した症例とし、対象期間は平成24年4月から同年9月退院分の6カ月間とした。また、分析方法は、Microsoft Access (Microsoft社) を利用した「診療プロセス分析」<sup>1)2)</sup>、診療情報分析ソフト Medi-Arrows (ニッセイ情報テクノロジー株式会社, 東京都, Ver. 4.51) を用いた、「パス分析」・「在院日数分析」・「ベンチマーク分析」の4分析を施行した。

本研究は、データ提出のあった各施設長の承諾と当院倫理委員会の承認を得た。

国立病院機構福山医療センター 経営企画室, 1) 診療情報管理室, 2) 事務部, 3) 外科, †事務官  
別刷請求先: 小早川儀雅 国立病院機構岩国医療センター 企画課 〒740-8510 山口県岩国市愛宕町一丁目1番1号  
e-mail: kobayakawa-y@iwakuni-mh.go.jp

(平成25年9月2日受付, 平成26年5月9日受理)

The Analysis of Critical Path using Receipt Data and Its Application

Yoshimasa Kobayakawa, Yuusuke Minematsu<sup>1)</sup>, Atsuko Hikichi, Yuusuke Kuroda, Takashi Nagata<sup>2)</sup> and Hiromi Iwagaki<sup>3)</sup>, NHO Fukuyama Medical Center, Division of Project Management, 1) Division of Information Management of Medical Treatment, 2) Office Work Division, 3) Division of Surgery

(Received Sep. 2, 2013, Accepted May. 9, 2014)

Key Words: receipt data, critical path, bench mark analysis